令和元年度第１回　清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体 会議録

１　開催日時　令和元年７月 24 日（水）10 時から 12 時 10 分

２　開催場所　中清戸地域市民センター　第１会議室

３　出 席 者　出欠席名簿の通り

４　配布資料

・　次第
・　資料１　清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体設置要綱
・　資料２　社会福祉法人清瀬市社会福祉協議会生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体運営要綱
・　資料３　清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体　委員名簿
・　資料４　令和元年度清瀬市第１層協議体の進め方

５　次第

（１）　開会・健康福祉部長より挨拶

平成２７年に行われた東京都の研究会には多くの人が参加し、積極的な姿勢について評価を受けた。堀田先生をお呼びしたフォーラムでは、見守りをされるより見守りをしたいという人が多かったことが印象に残っている。生活支援 CO や協議体ができる前は抽象的な議論が行われていたが、JA と子ども食堂をコーディネートする等の実績があがっている。協議体の発展により、清瀬の見守りの体制が強化され、素敵なまちづくりにつながると感じている。

（２）　委員委嘱

事務局より、協議体の設置要綱と運営要綱について資料１、２を用いて説明。

運営要綱にもとづき、協議体の運営は清瀬市社会福祉協議会が行い、委員委嘱は清瀬市社会福祉協議会の会長より委嘱することを確認した。

（３）　自己紹介

アドバイザー、委員、生活支援コーディネーター、事務局、オブザーバーより、所属する団体の活動紹介を交えて自己紹介を行った。

◆　アドバイザー菱沼先生

清瀬市の地域福祉計画策定に委員として関わった。生活支援体制整備事業は厚生労働省が行ってきた生活支援コーディネーターの指導者養成研修に企画・検討から関わり、生活支援コーディネーターが担う役割について厚生労働省の委員会の中で整備や検証、実施をしてきた。様々な地域でアドバイザーとして関わっている。

◆　森田委員

清瀬市地域包括支援センターでセンター長をつとめている。市内には、地域包括支援センターが４か所。高齢者の総合相談や権利擁護、ケアマネジメント、地域

づくりなどの取り組みを行っている。

◆ 伊藤委員

地域包括ケア推進課長となり、４か月が経過。協議体の進め方を理解し、意見を出していきたい。

◆ 鈴木委員

民生児童委員を６年つとめており、担当地区は竹丘３丁目１番から１０番。

◆ 田中委員

シニアクラブより参加。独り暮らしの方への訪問や入院している方への面会などを行っている。自分自身の役割を考えながら参加していきたい。

◆ 芦澤委員

清瀬商工会の事務局長として４月に赴任。商工会では地域の事業者支援を中心に地域振興も行っている。どのように協議体に関わることができるか模索しながら、地域に貢献していきたい。

◆ 福嶋委員

シルバー人材センターより参加。６０歳以上の元気で働く意欲のある方なら誰でも入会できる。登録会員は９００名弱。働き方は基本的に請負と派遣の２種類で、市役所や大学、企業、一般家庭などから仕事の依頼あり。年間約３億４千万円の契約金額となっている。

◆ 小川委員

緑蔭交流サロン地域サロンを運営。他に、歩け２万キロ旅の会の会長もしている。参加者はほとんどが高齢者。高齢者の声を届けていきたい。

◆ 長谷川委員

竹丘の８つの都営住宅からなるチーム竹丘より参加。連合会化して８年が経過し、住民交流や助け合い、地域の見守り、音楽フェスティバルなどを実施。今後は防災訓練も計画中。

◆ 村田委員

社会福祉法人清悠会より参加。協議体には最初から関わっており、最初は何をすればいいかわからなかったが、最近になって地域づくりを行うことだと理解した。生活支援コーディネーターがそれぞれ活動しているので、自身の業務を行いながらではあるが、何ができるかを考えながら協力していきたい。

◆ 金井委員

健康づくり推進員となって約２年が経過。所属する部会では、できるだけ外出し、健康を維持することを目的にいきいきハイキングを実施。７０歳以上の高齢者が平均して８０名ほど参加し、非常に楽しんでいる。また、他の部会では音楽会や体操クラブなどの活動を実施している。学んだ内容は、健康づくり推進員でも役立てていきたい。

◆ 星野委員

清瀬市社会福祉協議会より参加。主にボランティア・市民活動センターの業務を担当。地域住民の力を引き出し、活躍の場をつくることで、困りごとを抱えた方や困りごとの解決につなげている。業務の内容は、生活支援コーディネーターや

協議体と重なる部分もある。既に顔なじみの方だけでなく、初めての方もいるので、話し合いの場を通じて普段から顔の見える関係ができるといい。

◆ 信愛圏域第２層協議体より林氏

信愛圏域第２層協議体より参加。六小地区自治会連合会に所属しており、六小の児童など、約２千名を対象に新聞を発行。また、清瀬国際交流会の日本語教室に関わっていることから、子ども食堂とも関わることになった。色々行うことでつながりが拡がっているが、一方で若い世代へのトスが課題。

◆ 信愛圏域第２層協議体より出口氏

信愛圏域第２層協議体より参加。清瀬療護園でボランティアや地域交流を担当。地域の方々やボランティアに寄り添い、地域課題に対して重度心身障害者施設の枠を飛び越えて、みんなが幸せになれるような地域を目指している。

◆ 社協圏域第２層協議体より佐藤氏

社協第２層協議体より参加。５年前に退職し、男の料理教室に参加した縁から社協の権利擁護の仕事を行うことになった。現在は市長申立ての後見人を受任している。第２層協議体に参加し、顔見知りができている嬉しく思っている。また、現在は民生委員として活動している他、地域福祉計画策定時には委員をつとめた。地域とつながりができ、顔見知りが増えることで地域の活動が充実してくると思う。原田さんや第２層協議体メンバーと一緒に色々なことができればいいと考えている。

◆ 清雅圏域第２層協議体より冨田氏

旭が丘みんなのサロンより参加。昨年の今の時期は、自分達がサロンを自主運営するとは考えていなかった。１０月に１周年を迎えるが、もうすでに何年も取り組んでいるような実感あり。地域の皆さんに何かをして差し上げるという感じではない。顔見知りではないスタッフが集まり、自分達が楽しみたいこと、行ってみたいことを話し合って形にしている。参加者の数に関わらず、メンバーも参加費を支払い、自分達がまず楽しむ。そうした形で輪を拡げていき、参加者なのかメンバーなのか、スタッフなのかわからないうちに地域がつながっていった。よくわからないまま１００円をもって参加した方が、面白そうだからという理由で早めに来て手伝う側に周るということもある。毎回新しい体験をしながら、ちょっとずつ育ってきた。これから地域をどうしていこうかというよりは、今はみんなで自分達が楽しむことを考えている。

◆ 森生活支援コーディネーター

きよせ信愛地域包括支援センターで第２層生活支援コーディネーターとして活動。担当圏域は梅園・野塩・竹丘・松山。配置当初は周囲のアドバイスを参考に地域を訪問。多世代食堂を行う際にはＪＡと交渉し、規格外野菜をいただくことができた。そうした経験を通じて、自分の範囲だけでなく仲間と取り組みを拡げていくことが重要と実感。自身が一緒に地域を盛り上げていきたいと思える方々と第２層協議体で話し合いができている。参加者が積極的に行っている活動をサポートできることは嬉しく感じている。

◆ 原田生活支援コーディネーター

きよせ社協地域包括支援センターで第２層生活支援コーディネーターとして活動。担当圏域は上清戸・中清戸・下清戸・元町。支え合いづくりや地域づくり、第２層協議体であるいきいき会議の運営をしている。

◆ 鈴木生活支援コーディネーター

きよせ清雅地域包括支援センターで第２層生活支援コーディネーターとして活動。担当圏域は下宿、旭が丘、中里。昨年は毎月会議を重ねながら、地域の方が集えるサロンを開催し、現在も話し合いながら楽しく取り組んでいる。生活支援コーディネーターは月に２回打合せを実施し、情報共有や意見交換を実施。１０の筋トレの取り組みでは市内各地の公共施設で体験会を行い、自身の地域で介護予防の自主グループができるよう調整を進めている。今後は、市内の生活支援団体とケアマネージャーがつながる取り組みの企画や退職した高齢者の地域デビューを狙ったマッチングイベント等、話し合いを重ねている。そうした取り組みについても、第１層協議体の力を借りることができればと思っている。

◆ 健康推進担当部長

４月より着任し、健康推進課長も兼務。赤ちゃんから高齢者まで、すべての市民の健康増進を目指している。健康ポイントの取り組みでは、運動することでポイントを貯め、商品と交換するなど、楽しみのある取り組み行っていた。今年度も事業再開できるよう準備中であり、楽しみながら運動できる準備を進めている。

◆ 高齢支援課長

介護保険の給付や保険料などの担当部署。これからの日本社会は少子高齢化が進み、今のままでは制度の持続が困難と言われており、地域包括ケアシステムの仕組みや住民主体のボランティア活動が重要と感じている。今年度より介護保険事業計画を作成していくこととなっており、夏には委員会を立ち上げる予定。それにあたっては、６５歳以上の高齢者や事業者に対してアンケート調査を実施予定。そうしたアンケート結果を協議体の中で報告することで実効性に富む計画になると考えている。

◆ 産業振興課長

清瀬商工会やＪＡとのつながりが強い部署。特にＪＡについては、買い物弱者への対応として、中里地域市民センターや旭が丘団地において市内産農産物の販売を行っている。来月はひまわりフェスティバルを実施予定であり、主担当をしている。

◆ 地域包括ケア推進課福祉総務係　上垣職員

協議体や生活支援コーディネーターの担当部署。

◆ 事務局富田

地域福祉係に所属。今年度より会議進行のサポートなどを行う。

◆ 事務局鍵和田

地域福祉係に所属。平成２８年４月より第１層生活支援コーディネーターとして活動。協議体発足当初より、取り組みの進め方について迷いながら活動を続けてきた。現在は、第２層生活支援コーディネーターが配置され、それぞれの圏域内で協議体を実施。協議体の運営だけでなく、顔の見える関係づくりやネットワー

ク化を進める中で、地域活動の存在や課題が見えてきている。この協議体では、様々な分野で活動している方や団体が集まっている。それぞれの団体の強みを確認し、市内の課題整理を行いながら、今取り組むべきことを検討したいと考えている。また、協議体の場を、地域課題や資源を持ち寄れる場にしていきたいと考えている。

（４） 委員長及び副委員長の選任

福嶋委員より、清瀬市のことに詳しい方ということで、委員長に長谷川委員、副委員長に星野委員が推薦される。

⇒他委員より承認があり、委員長に長谷川委員、副委員長に星野委員が就任。

◆ 委員長

協議体という会議は初めてで、一般的な委員会とは違うために的が絞りづらいが、皆さんの協力を持って進めていきたい。都や市内の勉強会に参加し、このシステムについて頭では理解しているが、どう動かしていくかがわからない。協議体は結果を出す会議ではなく、皆さんの意見を併せて共有していく会議と聞いている。地域で活躍されている方々や事業を行っている方々が参加する協議の場なので、日頃の活動などを共有できれば。また、現在清瀬市では第２層協議体が主体となって動いているように感じる。そういった取り組みについても共有し、協働することで地域支援や介護予防について考えていきたい。

◆ 副委員長

何を行っていくかがわからないという方が多くいたが、ゼロからのスタートだと思っている。協議体の場で知り合いになって、それぞれの取り組みを共有し、フラットな関係の中で意見交換できるのが協議体。一緒に議論に参加していきたい。

（５） 会議の進め方に関する説明

事務局より、地域包括ケアシステムとその中の支え合いの仕組みづくりについて資料４を用いて以下の点について説明。

◆ 地域包括ケアシステムについて

- 転倒して骨折してしまった「清水さん」を例に説明。
- 人生や生活で「したいこと」を「なじみの」環境の中で続けることは多くの人が希望。
- そのためには、困りごとが発生した際に介護保険制度だけに頼るのではな

く、有償の助け合いや民間サービス、お互い様の助け合いなど、地域の様々な力を活用することが１つ方法。そうすることで清水さんの生活の幅が拡がり、「住み慣れた地域での自分らしい暮らし」の実現につながる。

◆ これまでの第１層協議体と第２層協議体について

・ これまでの第１層協議体では、本会（年４回程度）及び地域資源ニーズ把握部会（A 部会）と支え合いバックアップ部会（B 部会）に分かれて意見交換を実施。また、地域団体との意見交換会や勉強会等、実際に地域に出向いて活動を行ってきた。

・ 昨年の１０月以降、第２層協議体が第２層生活支援コーディネーター圏域ごとに設立され、参加する様々な個人や団体がつながり、対話する場となっている。

◆ 今後の第１層協議体について

・ 生活支援コーディネーターは、協議体の運営や地域活動への訪問により、地域資源の掘り起こしを行っている。第２層圏域における様々な情報を整理し、その人にあったサービスや仕組みを利用できる体制ができると、「住み慣れた地域での自分らしい暮らし」に近づいていく。

・ しかし、これまでは地域で活動する活動や団体の情報が整理できておらず、①困りごとに対してどのような仕組みを利用できるか、②どのような活動（資源）が足りていないかを話し合う場がなかった。

・ よって、これまでと異なり具体的な取り組みは第２層協議体が行い、第１層協議体は、第２層協議体をはじめとした地域で活動する団体等の取り組みについて共有し、清瀬市内の課題について話し合う場として運営することを検討している。

（６） 情報交換

① 参加委員の関心の共有

資料４に登場した「清水さん」の困りごとに対し、「委員が所属する団体等でできることは？」をテーマに意見交換を行う。

● 高齢者の困りごとに関する相談機関とサービスについて

・ 困りごとの相談先がわからない方もいるので、地域包括支援センターの役割に関する情報発信に力をいれる。

・ 困りごとがある方を地域包括支援センターにつなぐことが民生委員の第１の仕事となっている。重い物を持てずに買い物の困っている人から、代わ

りに買い物をしてほしいと頼まれることもあり、実施できる団体につなぐこともある。

- 認知症が疑われる場合には、認知症初期集中支援チームによる支援を受けられる場合がある。また、市内では認知症サポーター養成講座に取り組んでおり、サポートする体制づくりにも取り組んでいる。
- 判断能力が低下してきた場合には、権利擁護センターとの連携による支援も考えられる。
- 清瀬市では、平成２９年度より介護予防日常生活支援総合事業を実施しており、事業の対象者であれば、保健師の訪問などのサービスを利用できる。
- １人で地域団体等に参加がしづらい場合に、地域包括支援センターの職員が同行するなどのことも考えられる。

● 有償の生活支援サービスや地域の助け合いの仕組み

- シルバー人材センターでは、有償の生活支援サービスを実施。買い物代行や家の掃除、ゴミ出し、車いすの散歩付き添い、話し相手、除草、植木など、支援内容は様々。支援の担い手として、大工や電機屋などの職人がおり、介護保険申請によって玄関に手すりをつけるなどの支援を行うこともできる。
- 市内には有償運送を行う団体あり。困りごとが移動に関することであれば、そういった団体を紹介できる。また、清瀬市では移動販売を実施しているので、買い物に困っているようであればそういった取り組みも利用できる。
- 介護を行う高齢者のみの世帯より、自身が病院に行く間の家族の話し相手をしてほしいと相談があり、対応した。高齢者同士の世帯においては、介護保険によるサービスを単位の上限まで利用している場合があり、対応する必要がある。
- 商工会として、住宅リフォームやバリアフリー化など、有償の支援を行うことも考えられる。転びにくい、安全に過ごせる家につながるのでは。他市では、住宅改修に関する補助金の仕組みを設けている自治体もある。
- 他市では宅配事業などを行っており、清瀬市でも以前は行っていた。

● 地域のつながり・助け合い

- 清水さんには馴染みの友人がいるようなので、友人同士で困りごとの解決ができないかと思う。生活支援コーディネーターとして友人同士で話し合える関係づくりを意識している。きよトレ学校では「休む時は友人に声をかけてください」「特殊詐欺の手紙がきたら皆さんに相談してください」などの声かけをしており、そうすることで顔の見える関係ができてくると思う。第２層協議体の力も借りて取り組んでいきたい。２万人の高齢者を生活支援コーディネーター３人でフォローすることは難しい。つながりをつくることで、市民の中に第３、第４のコーディネーターが増えていくといいのでは。

- まだ、自分自身は元気であることから介護の必要性を感じていないが、今後のことを考えると関心を持つ必要性を感じており、自分事として認識できるようにすることが重要だと感じる。近所の方は、介護を受けていない方がほとんどだが、周囲の人へ声かけをすることで支え合いになっていくのでは。
- 町内会の会長をする中で、高齢で困っている人が、本当は助けてほしいのに、遠慮して声を出していない印象を受ける。なぜ声を出せないのか、検討する必要がある。

● “支援上手”と“支援され上手”
- 支援する側の意見をまとめることも大切だが、支援される側の視点を持つことも重要。地域包括支援センターにつながった方は大丈夫だが、中にはつながらない方もいる。そうした方への対応も検討が必要。支援され上手をどのように育てていくか、全体で意見交換ができるといい。
- 地域支援を育てていくためには、困ったことを提供できる人の存在は大切。協力したいと思っていても何かあった時の保証は？と尋ねられると協力したい方は気軽に助けることができず二の足をふんでしまい、どこかの団体に所属しないと責任を負えない現状がある。そうした状況の中で、清瀬市でどのようなグループを作っていくかは課題。
- 子ども食堂に関わる際、福祉の対象ではない人にどう必要性を訴えるかが大切だと言われた。信号のない道路で小学生や中学生が会釈をせずに道路を渡るということがあった。「車が止まったら会釈をしましょう」と伝えることで、支援を受ける側にも働きかけ、つながっていかないと地域はできていかないのではないか。
- 支援上手、され上手という言葉があったが、何故され上手なのか分析が必要。資料の図では支援する側とされる側が分かれていたが、実際にはそうではないと思う。１人の人が支援する時もあればされる時もあるという形ではないか。また、自身が訪問すると、とても感謝され、その言葉がモチベーションになっている。支援され上手の人は、支援上手でもあると思う。

● 団塊の世代の社会参加
- 歩く会では、体が弱った際に会をやめてしまう方がいるが、むしろ出てきてほしい。また、団塊の世代の参加が少ないと感じている。参加したいと思えるような活動にしていく必要があると感じている。
- 団塊の世代が外に出たがらないのは、福祉の対象になる自分がかっこわるいと感じているからではないか。支援されることより支援することがかっこいいという雰囲気をつくっていくことが大事。地域がまわっていくためには、支援する人、支援される人、それぞれの対場から考える必要あり。
- 清瀬市内で色々な取り組みが行われていることはわかった。一方で、どこでどのような取り組みが行われているかがわからない。２～３年前までフルタイムで仕事をしてきて世の中のことがよくわからず、今になって初め

て知りたいと思うようになった。参加しづらい団塊の世代の気持ちがわかる気がする。

- 何かをしてもらうことやお世話になりたいではなく、何かをしてみようということであれば参加しやすいのでは。その世代の方々は、自分たちで立ち上げた経験も多い世代。何もわからない人も、自分たちが楽しむ方法さえわかれば、色々とわかっていくのではないか。そういう視点でこの場に参加したい。

● 支え合いの取り組みを進める上で持つべき視点

- これまでのアンケート調査を参考に、他にも困っている人がいないかを確認する。
- 既に清瀬市では、買い物に困っている人や地域があると聞いており、対応の必要性を感じている。
- 重度の心身障害者施設で勤務しており、その人のエンパワメントをどのように引き出すかが重要と感じている。その人とコミュニケーションをとり、できることは行ってもらう。どのようにすれば行うことができるかを判断しながら、自信をつけ、生活の幅を広げられるといいのでは。

● 検討が必要な生活課題

- コミュニティプラザひまわりで囲碁大会を実施した際、雨天時の移動手段について課題を感じた。雨だと移動困難になる方を車で迎えに行く際、事故が起きた際の保険のことを指摘されると対応が難しい。立場の弱い方の雨天時の移動手段について、支援方法を検討する必要がある。
- 退職後の男性の社会参加も重要なテーマだと感じる。
- ケアマネにつながれば介護保険サービスにつながるが、「１人だと怖い」「買い物をどうしよう」という困りごとは、介護予防や生活支援に関わる内容でもあるため、今後の第２層協議体で考えていくテーマだと思う。

● 各団体の中で課題と感じていること

- 健康推進員の会合では男性の参加が少ないことが課題になっている。長年働いていたことから、団体に入りたくないのか？理由はわからない。健康推進員になるためには、いくつか条件があり、気軽に参加できる仕組みだとよいと感じている。

● 第２層協議体で取り組んでいること

- 第２層協議体の中で外出に関する困りごとについて話し合い、高齢者が出かけたくなるマップを作っている。高齢者の外出を阻害する要因として、休憩する場所がないことやトイレが近いことがあげられ、ベンチやトイレを地図上に落とし込むことになった。まず、外出の目的を達成するためのベースになることに取り組み、散歩道や買い物のルートと重ね合わせていきたい。また、外出するための阻害要因を見極めて、検討していくことが重要。
- 介護保険のことがわからず、勉強会やその後の集まりに参加する中で、８名から１０名のメンバーが残り、旭が丘みんなのサロンのメンバーとなっ

た。収益にならないことを何故継続するのかをメンバー内で確認したところ、「楽しいから」という理由。誰かに楽しんでもらうことも楽しいし、自分たちが楽しむことも楽しい。

- 今後の第１層協議体の進め方について（菱沼先生より）
  - 個別事例と統計データにより、地域の困りごとを共有して検討する必要あり。清水さんのような方々がどれくらいいるのか、データを出して共有することも重要。データ整理については、行政と第１層生活支援コーディネーターが行えるといいのでは。内容については、要介護高齢者の数や１人くらし高齢者、身寄りのない高齢者で困っている人がどれくらいいるかなど、わかっていることとわかっていないことを整理する必要あり。わからないならどのように解決に近づいていくか、また、既存の調査を活用できないかも検討しては。
  - 第２層協議体の取り組みや社協や清瀬市企画課が行う地域づくりの会・円卓会議の取り組みについて共有し、連動する必要がある。助け合いの仕組みをどうつくっていくかをすり合わせていけるといいのでは。有償生活支援サービスの仕組みにおいては、依頼があっても対応できないケースもある。そうした場合、どのような仕組みが必要かを考えることも重要。
  - また、市全域で検討すべきことの整理も必要。例えば、サロンに参加しない高齢者について調査するため、市内のサロンと連携して調査することで、どこのエリアにどのくらいの方がいるかなどを把握することができる。フォーラムを自分たちで企画して活動する場所を作るなど、楽しさをどのように作っていくかも考えられるといいのでは。
  - 生活支援コーディネーターで今日の話し合いの内容を整理し、市全域ですべきことを議題化することで次につなげられるといいのでは。

（７） 次回開催日

次回開催は１０月２５日（金）９時半～１１時半　@会場未定

（８） 閉会